

ふるさと 再発見

広川町郷土史研究会

南北朝時代の郷土 その3

～ 豊福・六段河原の大激戦 ～

菊池武敏、豊後玖珠城へ移る

延元元年（1336年）

3月17日、足利尊氏の追撃軍によって黒木城が攻められたことは、前号で述べました。黒木城陥落後、しばらくの間菊池武敏の所在がわからなくなり、その空白を埋めるのが、尊氏や弟の直義が出した軍勢催促状です。「球珠城凶徒等誅伐の事、一族相催し、今川四郎入道の手に属し、軍忠致すべく、の状件の如し」との内容の書状が、直義から狭間政直に宛てて出されています。

ちなみに当時の玖珠城（JR久大本線豊後森駅の南西に見える伐株山に在った）は、尊氏方の大友氏泰の勢力下であり、そこが足利の勢力に攻められることは興味を引きます。「歴代鎮西志」に「將軍之軍サ、筑後黒木城ヲ不日ニテ攻テ之ヲ破ル。菊池武敏逐電ス矣、其ノ後復タ玖珠城ニ蜂起シテ云々」とあるように、武敏はここに立てこもっていたとうかがえ、攻められた事情もなるほどとうなづけます。

豊福原・六段河原の戦

同年8月、所在不明だった

菊池武敏が、わずか5か月ほどで軍勢を調べ、阿蘇大宮司恵良惟澄とともに再び筑後へ進出してきました。

この動きを察知した九州探題一色範氏は、佐竹氏義が率いる筑前・肥前の軍勢を発向させています。両軍がぶつかって戦端が開かれた場所が、六田橋上流域から豊福丘陵にかけての一带であり、8月20日から31日までの11日間にわたる戦となりました。それも大激戦だったようで、恵良惟澄の申状からも、乗馬が切られたことなどを知ることができます。

さらにこの戦での菊池軍は、大宰府からやってきた敵に立ち向かうだけでなく、3月以来、敵の手中にあった黒木城から攻め来る軍勢をも防がなくてはなりません。まさしく腹背に敵を受けての、大激戦だったということですね。

大敗を喫した菊池軍は再起を期すべく、まずは本国菊池への帰国を余儀なくされたことはいまでもありません。六田の鹿田氏の



六段河原の古戦場（六田橋より上流を望む）

今から686年前、この一帯で九州探題の軍勢と菊池の軍勢が11日間にわたる大激戦を繰り広げた。

本貫地（出身地）は、鹿本郡（熊本県）の志方と伝えられています。

豊福丘陵から北麓の広川沿いにかけての一带は、大宰府と菊池の双方にとって戦略的要衝の地であると前述しました。六田の鹿田氏の由来碑には「肥後国菊池氏の一族で、開祖を鹿本大明神と称す」とあり、その出身地をうかがい知ることができます。

いち早くこの一帯に地の利を得て、体勢を整えるか否かは、勝敗を分ける大きな要因です。由来碑を読む限り、鹿田氏にもそのような役割があったのではないかと考えられます。

広川町古墳資料館だより

従来のアナログ技術と最先端のデジタル技術を融合し再現した文化財とその技術を「クローン文化財」と呼びます。これは東京藝術大学の成果の一つで、貴重な文化財を公開しながら保管できるという点で大きな反響がありました。

今後は地震などの天災で破壊された装

飾古墳などにも活用できる可能性があります。

右の写真は、再現された法隆寺釈迦三尊像です。3Dプリンターで作成した原型を用いて鋳造し、光背銘は手作業で彫刻され、実物と同じ檜材で作られた台座に鎮座しています。



▲複製された法隆寺釈迦三尊像

3月21日は「国際人種差別撤廃デー」

～ 人種・民族問題を考える ～

☎教育委員会事務局人権・同和教育係 ☎0943-32-0093

国際人種差別撤廃デー

1960年3月21日、南アフリカでアパルトヘイト（人種隔離）に反対する平和的な抗議行動に参加していた69人が殺害されるという恐ろしい事件が起きました。国連はこのことをきっかけに、3月21日を「国際人種差別撤廃デー」としています。

1965年、国連総会で「人種差別撤廃条約」が採択されましたが、世界では今日も人種・民族を理由とした差別が年齢や性別を問わず起きている。自分と「皮膚の色が違う」「文化が違う」などの理由から、安易に偏見や差別を続けている人がたくさんいるようです。

人種差別・民族差別の歴史は、帝国主義による植民地支配が広がる前からありました。紛争などの原因になることもあり、アフリカやアジアだけでなく、アメリカやヨーロッパといった先進国でも人種差別・民族差別は起きています。いまや世界中で取り上げられている問題です。

今回は「人種・民族」について考えてみます。

「人種」とは

「人種」とは、皮膚の色や髪の毛の形状など、身体の生物学的特徴を共有する集団のことです。一般的には皮膚の色で分けられますが、これらに入らない集団も多くあります。

有色人種に対する差別は、今でも世界各地で起きています。昨年、アメリカで人種差別への抗議活動が広がるきっかけになった警察官による黒人のジョージ・フロイドさん殺人事件がありました。フランスで最近行われた調査では、会社での採用の際、全体の70パーセントが「アフリカ出身の応募者よりフランス出身の応募者を優遇」。このうち3分の2は「履歴書の名前や顔写真から1次試験の可否を判断していた」という「著しい差別」があることがわかりました。新型コロナウイルス感染症が始まった2020年には、世界各地でアジア人襲撃が起き、日本人も被害に遭いました。

「民族」とは

「民族」とは、言語や宗教、

慣習など、文化的特徴を共有する集団のことです。世界各地には、北米の「ファーストネイション」・「ネイティブアメリカン」や中米のマヤ民族、中国のウイグル族、ミャンマーのロヒンギャ族、そして日本のアイヌ民族など、約3億人の先住民族や少数民族が暮らしています。

これらの人々は、さまざまな歴史的背景の中で、社会の中で偏見をもたれたり、法律によって土地を奪われたり、固有の言葉や文化を否定されたりするなど、差別を受けてきました。さまざまな権利を守るため、2007年に「国連先住民族権利宣言」が採択されました。

「アイヌ民族」の人権問題

アイヌ民族は、北海道を中心に生活している狩猟や漁労採取などを行っていた固有の民族でした。明治時代に入ると一方的な同化政策が行われ、アイヌの人たちのそれまでの生活様式などはすべて廃止され、奪われていきました。そして生活や労働・就職、恋愛、結婚、学校生活などで、差別

が強まっていったのです。アイヌ民族のこうした差別をなくし、生活・文化を守るため、2019年4月に「アイヌ民族支援法」（アイヌ新法）が成立しました。

日本にはさまざまな人種・民族の人が同じ社会で暮らしています。人種差別・民族差別が起きている原因の一つに、相手への不理解から起こる偏見があります。さまざまな正しい情報を得て、自分の言動が相手にいやな思いをさせることにつながらないか考えて、行動しましょう。

北海道の地名の8割はアイヌ語。地形の特徴や土地の産物を語源としているため、川（ベツ）や沢（ナイ）を意味する地名が多い。

- ・登別（のぼりべつ）
アイヌ語：ヌブルベツ
[意味]色の濃い川
- ・稚内（わかかない）
アイヌ語：ヤムワッカナイ
[意味]冷たい水の沢

